学校教育学研究，1997，第9巻，pp. 61-71

子どもの関心・意欲を育てる社会科授業構成と実践分析（V）

― 小学校5年「ビデオ『杉原紙』を作ろう」を事例として ―

兵庫教育大学　社会系教育講座　原田智仁　岩田一彦
兵庫教育大学　附属小学校　大西誠一　吉田典之　進藤憲司
社町立社小学校　堂本大明
三木市立三樹小学校　大橋尚人

本研究では，関心・意欲を育てる授業設計・実践・授業分析・評価方法の開発を目的としている。これを達成するために，関心・意欲はどのような社会科授業設計および実践の中で育てることができるのか，また，関心・意欲の視点から，授業分析をすることおよび評価をすることはどのようにすればよいか，といった点を解明した。本研究では，単元の学習内容に関する関心・意欲を計るため，プリテスト，各時間毎の振り返りカード，学習ノート，単元終了後の感想文を検討材料とした。それらの材料を使って，関心・意欲とその学習成果，関心・意欲とその成長過程を分析検討した。その結果，「体験を組みこんだ実感を伴う教材開発が関心を育て，認識内容の保証が学習意欲を喚起する。」という関係が明らかになった。また，社会科の授業設計に際しては，単元展開の過程で，常に，子どもの関心・意欲の評価を行い，その評価内容を生かした授業計画の柔軟な変更が必要なことが明らかになった。また，関心・意欲という新しい学力観の中核を占める能力に関する新しい評価方法を提案することができた。

キーワード：関心・意欲，社会認識，社会科授業，評価，伝統工業

1．序

本研究は，子どもの関心・意欲を育てる社会科授業構成と実践分析―3年「社町の桃づくり」を事例として―<1>，同（Ⅱ）―小学校4年の「山地の人々のくらし―安曇野（穂高町，豊科町）に湧く良質で豊富な水を生かしたくらし―」を事例として―<2>，同（Ⅲ）―小学校3年「ひとびとのくらしと商店―買物を10倍楽しむ方法―」―<3>，同（Ⅳ）―小学校4年「菊づくりに生きる沖縄の人々」を事例として―，の継続研究である。これらの研究では，認識内容を深めていくことが，関心・意欲を育てていくものである，との研究仮説のもとに研究を進めた。

これまでの研究成果から，認識内容の深まりが，関心の育ちや意欲的な学習活動を促進することが確認された。また，関心・意欲を育てるための社会科授業設計の過程における，子どもの評価および授業分析の基本型を作ることができた。

本研究は，関心・意欲を育てる授業実践の結果，子どもがどのように関心や意欲を伸ばしているかについて，その成果と成長過程に絞って分析検討した。本研究における，問題意識，研究仮説，研究方法は，次のとおりである。

<問題意識>

関心・意欲を育てる授業実践の中で，子どもはどのように関心・意欲を伸ばしているか。学習成果とその成長過程を追求することによって，明らかにしていく。

<研究仮説>

見学，体験，人物への共感を授業に組み込めば，子どもの関心・意欲を効果的に伸ばしていくことができる。

<研究方法>

① プリテスト，単元終了時の感想文の分析を通して，関心とそれに関わる学習成果を分析検討する。
② 毎時間の振り返りカードおよび学習ノートを分析して，関心の成長過程と授業の関係を明らかにする。
③ プリテスト，ポストテストの内容を分析し，その質と量を検討して，意欲とそれに関わる学習成果を明らかにする。
④ 毎時間の振り返りカードおよび学習ノートを分析して，意欲の成長過程と授業の関係を明らかにする。

本研究では，これらを踏まえて，関心・意欲の育ちをいっそう緻密に追いかけるとともに，関心・意欲を育てる授業設計・実践を探究した。

たとえば，授業設計に際しては，子どもに実際の紙すき体験をさせて，その技術の高度さを実感させる工夫をした。そして，伝統工業が現在の社会においてどのような意味と役割をもっているのかについて関心をもたせ，問題追求の意欲を育てることを図った。

関心・意欲の評価においても，これまでに開発してきた研究手法を，いっそう磨くとともに，新しい試みも行った。

（岩田一彦）

2．授業構成の実際

2．1　教材解釈

子ども達は，これまで農業や水産業について，自ら問いを持ち，その解決を目指した調査活動や話し合い活動を行ってきた。

その中で，生産に携わる人々が安全な食料の安定供給に向け，無農薬栽培や資源保護のためバックフィッシュ運動をすることに共感的な理解を示すとともに，自らの価値判断をするに至った。

そして，子ども達の関心は，第１次産業のそれから第２次産業における人々の営みへと高まってきたところである。

本単元で取り扱う伝統工業は，その土地の気候・風土に応じて，生産工程の主な部分が昔ながらの伝統的な技に支えられたものである。

規格品の大量生産である近代工業とは違い，人の手によって生み出されるという「物作り」の原型を示していると言える。

素材としての「杉原紙」は，奈良時代よりこの播磨地域北端の加美町で生まれ，一時途絶えたものの，再び受け継がれて今日に至っている。

杉原紙は，純粋な地元産の楮を粘材としてのトロロアオイでつなぎ，流しすきという技によって生み出される。「紙すき十年」の言葉通り，その技は奥深いものである。

また，紙すきは，元来冬季の仕事であり，厳寒の気候や冷たい清流などの条件下でのみ良質の和紙の生産が可能となる。

このように１３００年の伝統の技と加美町のもつ自然条件が融合して「杉原紙」が生み出されているのである。

子ども達がこの学習を通じて学ぶことは，次の２点である。

まず，本物作りをめざして，杉原紙本来の白さと，筆は走るが墨は留まるの紙質を生み出すために，自然条件を活かしながら努力する人々の姿である。つまり，原木から白皮作りまで，寒中で何度となく繰り返されるていねいな作業ぶりや流しすきの技修得への修行を体験を通して理解することである。

次に，「伝統の技を受け継ぐ」ということの意味をとらえることである。昭和４７年の復元にあたっては，和紙研究家の寿岳文章氏らによる杉原紙発祥の地証明を契機に，郷土史家藤田貞夫氏はじめ加美町の住民や行政の取り組みが見られた。中でも，２９歳で紙すきと出会い，その後継者として半生を杉原紙と共に歩んだ井上正康氏の生き方に触れながら自らのあり方を見つめるということの意義は大きい。「杉原紙を残しているのは加美町のすばらしい自然です。私の技など大したものではない。杉原紙を残すということは，加美町の自然を残すことです。」と井上氏は語っている。

伝統の技の継承は，ふるさとの自然を愛し，つくることを愛する人の心によって成り立ち，その思いが一人でも多くの人々に伝わることを願って，今なお紙すきの水音を響かせておられるのである。

学習の実際的展開にあたっては，子ども達に杉原紙の歴史的な存在の大きさと杉原紙博物館建設中の事実を知らせ，興味・関心を高めるとともに，そこで放送してもらえるビデオを作ろうと投げかけることにより，学習の目的を明らかにし，意欲を持たせる。

子ども達は，製品の種類や作り方などについて問いを持ち，調べることから学習を始めるだろう。

集めた情報を交流することや，現在の杉原紙ビデオと比較することによって，自分達の調査や構想内容の成果を認め合うとともに，ビデオで表現したい主題は何かという問いを持つに至るだろう。

そこで，実際の紙作りを体験させたり，見学させたりしながら，働く人々の願いや工夫・苦労を捉えさせたり，井上氏の生き方への共感的理解を高めさせたい。そして，完成したビデオを井上氏に見てもらい感想を聞くことで学習のまとめとしたい。

子ども達が地域の素材に主体的に関わって，楽しみながら学習を展開できるように，興味・関心・意欲を高める導入を工夫し，紙すき・見学などの体験，話し合い活動，ビデオづくりなどの活動を組み込むことによって，学ぶ楽しさ，わかる喜びを味わわせるとともに，「物を作る」「伝統を守る」といった意味について理解させたい。

2．2　単元の指導

2.2.1 単元の目標

- 自ら問いを持ち，意欲的に情報を集めたり調べたりして，ビデオ「杉原紙」を作ることができる。
- 頑強で白く温かみのある杉原紙が，加美町の自然・伝統の技・井上さんたちの努力によって生み出されていることを理解することができる。
- 杉原紙の復元に携わった人々の思いに触れ，「物を作る」「伝統を守る」ということの意味について，自らの考えを持つことができる。

2.2.2 単元計画

１次＝４時間，　２次＝１３時間，　３次＝６時間

2.2.3 学習過程（次頁図１に示すとおりである）

（吉田典之）

学習過程		学習課題	主な学習活動	教師の働きかけ
触れる	第一次　4時間	杉原紙情報を集めよう	○杉原紙番組を作るというめあてを知り、学習の計画を立てる。 ・構想を立てる。 ・調べ方を決める。 ○杉原紙情報を集め、まとめる。 製品　生産工程　加美町の自然 歴史　原料　道具など ○まとめた内容を発表し合い、検討する ・研究所にあるビデオとの比較 ・新たな観点作り ・自分達の紙すき体験との比較の必要性	・播磨地域の伝統的な工業製品を列挙しながら、杉原紙の歴史的な存在の大きさと和紙の頑強さを知らせ、3月オープンの杉原紙博物館で放映してもらえるビデオ作りに挑戦するという学習のめあてを知らせる。 ・調べたい事柄を明らかにさせてから、情報を収集させ、各自でまとめさせる。なお、手には入らない情報については、教師が提供する。 ・「杉原紙ビデオ」が工程中心で構成されていることに着目させ、農業や水産業の学習を想起させ、人の願いや工夫・苦労の観点の必要性に気づかせ、見学前の紙作り体験と本物との比較で明らかにすればいいことをつかませる。
調べる	第二次　13時間　本時12時間目	杉原紙ができるまでを探ろう	○紙すき体験をする。 ・道具の使い方　・さな（のり）作り ・紙料作り　・紙干し　・紙すき（流しすき） ○紙作り体験の感想を交流し合い、ビデオに入れる作り手の工夫・苦労や気持ちについて話し合う。 ○見学の計画を立てる。 ・見所 ・質問内容 ・体験内容 ・取材方法 ○杉原紙づくりを見学する。 加美町の自然（千ヶ峰　杉原川）楮の栽培地 杉原紙の歴史（杉原紙発祥の地記念碑） 研究所見学　（作業見学　インタビュー） ○見学したことをもとに再度構想を深める。 ・前回の構想の修正 ・主題への意識	・前次で見たビデオをもとに道具の使い方や紙作りの方法を捉えさせ、紙作りを体験させ、気づいた工夫・苦労を書き留めさせる ・感想をもとに話し合わせながら、作り手の工夫・苦労や気持ちがこれでいいか確かめる必要性に気づかせ、見学予定を伝える。 ・ビデオ作りに何が必要かの観点で見学時の内容や方法を明らかにさせる。その際、見所・聞き取り・体験の観点で考えさせる。 ・作り手の工夫・苦労などの確かめについてはあらかじめまとめた構想と比較させる。 ・杉原紙の製作条件（自然条件）としての寒さ、杉原川の清流の冷たさに触れさせる。 ・まとめるにあたっては、グループ毎に行わせるが、考えの及ばないところは他グループと交流させる。目次と内容がある程度見えたところで主題を意識させる。
		杉原紙の良さを探ろう	○まとめたことをグループ毎に発表し、編集内容を検討する。 ・目次と内容 ・主題決定の観点（杉原紙の良さ） ○主題について各自の考えをまとめる。 ○杉原紙の良さとそれを支えているものについて話し合う。 ・良さとは何か ・良さを生み出す条件 ・紙すきを見る。 ・井上さんの話を聞く ・主題をまとめる。 ○これからの杉原紙について話し合う。	・各グループの内容を発表させ、肯定的評価を与えるとともに、博物館建設の動機についての資料を提示し、ビデオで最も伝えなければならないこと（杉原紙の良さ）に気づかせる。 ・話し合いを深めることができるようあらかじめ各自の考えを練り上げさせておく。 ・自分達の紙と本物を比較させ、違い（本物の良さ）を浮き彫りにさせる。本物の良さの中の工夫・苦労、伝統の技のすばらしさ作り手の思いなどの観点で多面的に捉えさせ、技のすばらしさについては井上さんの伝統の技を見せながら考えさせる。 ・杉原紙の良さについて話し合ったことに対して井上さんからコメントをもらい、学習の成果を確かめさせる。 ・杉原紙の将来を利用価値や生産性の観点で話し合わせ、その問題点に気づかせるとともに、その継承の意味について考えさせる
関わり方を考える	第三次　6	ビデオ杉原紙を完成させよう	○これまでの情報を振り返り、ビデオ製作の計画を立てる。 ○グループ毎に資料やシナリオをつくる。 ○ペア班でリハーサルを行い、杉原紙の良さが表現できているか検討する。 ○係を決めて撮影、編集をする。 ○鑑賞会をし、学習を振り返る。 ビデオを杉原紙研究所へ送り感想を聞く。	・これまでの学習への取り組みに対する肯定的評価を行うとともにビデオをつくるという最後の課題を提示し、かかり分担をする ・各グループで内容を検討させ、内容の補足修正をさせるとともに資料やシナリオなどの準備をさせる。 ・リハーサルでは、主張点がはっきりしており、視聴者に伝わっているかの観点で評価させあう。撮影や編集についても可能な限り子ども達の手で行わせ、放送に携わる人の仕事に触れさせる。 ・ビデオを見たり、研究所の人の反響などをもとに、学習をまとめる。

図1　「ビデオ『杉原紙』を作ろう」の学習の流れ（全23時間）

3．関心の評価

3.1 関心とその学習成果の分析

本研究では，一貫して関心を問題関心ととらえ，その育ちを学習内容との関連で明らかにしようとしてきた。そのため，単元の開始前と各小単元の終了ごとに，主題に関してもっと（単元開始前は「とくに」）調べてみたいことがあるかどうかテストし，その内容の分析を通して関心の深まりや広がりを評価するという方法をとった。この方法の意義は，「もっと～」という問い方にある。そこには，これまでの学習を踏まえることが含意されており，ともすれば拡散しがちな子どもの回答を制御することができるからである。しかし，反面で子どもの多様な思いをとらえきれないという問題もある。そこで，今回は単元終了後に自由感想文を書かせ，関心と学習成果を全体的な観点からもとらえてみることにした。

さて，子どもの感想文はほとんどがＢ４用紙１～２枚にわたって，びっしり書き込まれていた。その中で，最も強調されていることを読み取り，プリテストの結果と併せてまとめたものが次頁の表１である。プリテストでの関心の所在は，大きく①杉原紙の作り方，②杉原紙が加美町で盛んになった理由や歴史，③杉原紙の用途・種類・特徴，に三分される。いずれも，杉原紙づくりを追究していく上で重要な問いではあるが，あまりにも問いが抽象的，一般的であり，似通いすぎているのが問題である。これには，子どものほとんどが杉原紙の存在を知らなかったために，教師がその歴史や技術，特徴などについて事前に説明した上でテストを実施したことが影響しているものと考えられる。したがって，単元の学習を通じて，子どもの問いがいかに個性的ないしは具体的になっていくかが，感想文の評価においては注目される。

感想文の内容を分析すると，①粘り強く追究したことなど学習方法への満足感，②学習内容への満足感，③学習内容の実践的判断に大別される。①は意欲との関連で重要であるが，関心の評価の点で注目すべきは②と③であろう。②は紙作りの苦労・工夫に関する事実認識と，井上さんの生き方への共感的理解，③は杉原紙を守っていくために自分ならどうするかという主体的意志決定からなっている。プリテストに見られた一般的な紙作りへの関心は，教室での紙すき体験と杉原紙研究所の見学により，さらにまた転職してまで紙作りに賭けている井上さんの執念を眼のあたりにしたことにより，具体的かつ切実な関心へと深まりを見せた。それは，10人もの子どもが自分の夢を実現することとの葛藤の中で，杉原紙を守り育てていくことにこだわりを見せたことによく表われている。このことから，関心を育てるには，認識内容に関わって体験的活動を組織することと，具体的な人間の生き方や悩み（問題）に触れさせることがともに有効であることが明らかになった。　　（原田智仁）

3.2 関心とその成長過程の分析

子どもの関心は何に向けられ，学習の進展にともなってそれはどう変化していったか。

学習毎に書かせた振り返りカードの記述内容から読みとることにする。

８名を抽出し，子どもの関心の対象やその移り変わりの様子をまとめたのが表２である。

この表から，おおよそ次のことが言えよう。

① 関心の内容が多義的拡散的傾向を示しているのは，１／９，１／25，１／26，１／29，１／30である。

② 関心の内容が集約的傾向を示しているのは，１／10，１／16，１／17である。

③ １次：拡散→集約，２次：拡散→集約，３次：拡散→集約といった明確な傾向は見られない。関心の持ち方と学習過程の区切りは必ずしも合致していない。

④ 個性的な追究はあまり見られず，集団，または小集団として比較的まとまった追究をしている。

以上のことを踏まえて，子どもの関心の内容やその変化に関わって，考察を加える。

設定した学習課題，１次：「杉原紙情報を集めよう」→２次の１：「杉原紙ができるまでを探ろう」→２次の２：「杉原紙の良さを探ろう」（→３次：「ビデオ杉原紙を完成させよう」※この部分は振り返りカードがない）は，杉原紙全般から学習に入り，製作過程やその良さに集約させながら，学習内容の本質に迫らせようとする教師の意図の働いたものである。

この学習課題の内容のみから考えれば，１次での子どもの関心は様々に広がり，中にはユニークな追究をする子どもも出てくることが期待される。

そして，２次では製作過程や杉原紙ならではの良さに絞られて，本質的で内容の濃い学習ぶりが見られる筈である。

しかしながら，実際に子どもが見せた傾向は，どちらかと言えば，その逆である。

学習後半は，ほぼ同一傾向の関心を持ち，後半になって広がっているのである。

このことから，学習課題の内容以外に問題点があったと考えられる。

先ず指摘されるのは，教師の子どもへの関わり方であろう。

課題の形成・解決過程を重視した学習スタイルをとりながらも，教師が出番を待てなかったり，出るべき所で十分指導性を発揮できなかったりしていることがうかがわれる。

例えば，１／９である。１次の序盤であり，子どもの自発性によって様々な動きがあっていい場面である。

にもかかわらず，歴史に集約させている。

あるいは，１／25，１／26，１／29，１／30である。

表１　関心とその学習成果の分析資料

児童	単元開始前の関心の所在	単元終了後感想（最も強調して書いていること）
1	歴史。原料。作り方。	杉原紙は問題を抱えていること（働く人が少なく若手がいない、儲からない）、杉原紙の歴史、作られている条件などわかった。
2	紙の作り方と種類。	研究所に行く前に、自分たちで紙すきの体験をしたことで、苦労工夫についてよく考えてから質問でき、迷惑をかけずにすんだ。
3	紙の燃料は何かなど。	やっているうちにいろんなことがわかり、次々に疑問が出てきて、それを話し合って、最後までやりとおしたことが楽しかった。
4	杉原紙のきっかけ。歴史。特徴。作り方。	
5	どんな和紙の種類があるか。作り方。	杉原しの跡継ぎの問題（跡を継ぎたいけど、他に夢がある無理）
6	どんな種類があるか。作り方。	今でさえ儲からないのに、これから安くていい紙ができてくれば、杉原紙はだめになる。でも伝統工業がなくなっていくのは残念だ。
7	杉原紙のいろんなことを調べる。	将来杉原紙の後継者になるかならないかで悩んだ。杉原紙は盲儲からないじゃら家族のためにならない。でもこれまで杉原紙のことを頑張って勉強してきたし伝統を守るためになりたい、で迷った。
8	種類や作り方。	ぼくたちも伝統を守りたいけど、儲からないし、夢があるから。
9	原料。	
10	作り方。加美町で盛んになったわけ。 名前の由来。なぜ1300年も続いたのか。	昔、有名だった杉原紙がまた有名になれるのかなあ。
11	歴史。原料。作り方。	
12	作り方。加美町でさかんになったわけ。 名前の由来。なぜ1300年も盛んだったか。	僕はこの学習をしてつらかったけど、とてもうれしかった。いろいろな体験ができたし、杉原紙のビデオが自分でできたから。
13	歴史。作り方。よいところ。	杉原紙を継ぐか継がないか（あまり儲かりそうにもないし、ぼくには夢があるから継がない。）
14	杉原紙のことをすみからすみまで調べる。	井上さんの気持ちをさぐり、楽しさやうれしさがあったから、よくわかった。
15	作り方。原料。道具など。	後継者問題（井上さんはそれまでの仕事もやめて紙作りを始めたが、ぼくはそんなこと絶対にしない自分の夢を実現したい。）
16	歴史。特徴。きっかけ。材料。 利用されているもの。	なぜ、ためすきではいけないのか、なぜ、こうぞの木の中心部は使わないのか、なぜ、寒さで紙の白さが決まるのか分からない。
17	歴史。紙のよいところ。	楮さらしの体験のために杉原川に入った。一生に一度の体験だと思うから、楽しかった。
18	作り方。材料。歴史。名前の由来。特徴。 くらしの中でどんな役に立つか。 作られたきっかけ。洋紙とのちがい。	班で調べたり、紙すきの体験や見学によって、チームワークができた。今は観光用になった杉原紙だが、井上さんは伝統を受け継ぎ、もう一度日本一にするという強い意志をもっている。
19	歴史。紙の材料（木の種類）。	伝統工芸品の貴重さ（伝統工芸は井上さんのようなすごい人が、すごい覚悟を決めて続いてきている）
20	1300年の歴史。名前の由来。紙の作り方。 作られたきっかけ。和紙の用途。	紙作りを継ぐ人がいないことを話合ったとき、僕は絶対に継がないことにした。理由は夢があるから。
21	歴史。加美町で作るようになったわけ。	井上さんは儲からないでもこつこつと楽しんで作業している。楽しんでいなかったら、今ごろ杉原紙はないと思った。
22	歴史。原料。作り方。	働く人の苦労を見つけるのが大変だった。私たちのようにたまにやるのとちがって、毎日働いている人には苦労いっぱいある。
23	実際に体験したり見たりしたい。	「仕事のしんどさ」と「手作りのよさ」を学んだ。私も人の役に立つ仕事を選んで、一つ一つ心を込めて仕事をしていきたい。
24	どのようにして杉原紙は生まれたか。 なぜ1300年も加美町で作られ続けたか。	こんなに杉原紙がたくさん使われていたんだから1300年も続くはずだ。杉原紙がこれからどのような道をたどるかわからない。
25	杉原紙のことをよく調べる。	1300年も続いてきて、一度とだえたのに復元したことがすごい。普通の人はお金のために仕事をするが、伝統を守るために働く井上さんはすごい。でも将来が心配だ。1300年の伝統はどうなるか。
26	歴史。特徴。作られたきっかけ。用途。	自分たちの力で調べ、話合い、まとめ、発表すること。
27	作り方。加美町で盛んになったわけ。 名前の由来。なぜ1300年も続けられたか。	最初はこんなことをしてもしょうがないと思っていたが調べ活動をするうちに段々楽しくなり、熱心にビデオ作りができた。
28	なぜ1300年も盛んだったか。名前の由来。 加美町で盛んになったわけ。作り方。	これから杉原紙が生き続けた方がいいのか、やっぱり必要ないのか、それはみんなで決めることだと思う。どちらになってもいい。
29	歴史や材料、作り方、特ちょうなど。	私を一歩前進させてくれた杉原紙を絶対に途切れさせたくないので、もっともっとみんなに知ってもらいたい。
30	杉原紙の歴史。作り方。よいところ。	最初は名前も知らなかった杉原紙について、調べていくうちに、歴史や工程、作っている人の工夫や苦労をいっぱいわかった。
31	杉原紙の歴史。作り方。よいところ。	自分で紙がすけたときはうれしかった。また、井上さんの本物の紙すきを見ることができて、すごくうれしかった。
32	杉原紙の歴史。作り方。原料	私は杉原紙を求めている人のために、自分の仕事をやめて儲からない杉原紙を作っている井上さんのような人になりたい。
33	杉原紙のことをくわしく調べる。	伝統工業って大変だなあと思った。１枚の杉原紙にもいろいろな工夫や苦労が入っている。私もこんな仕事につきたいと思う。
34	和紙の歴史。何から作られているか。 名前の由来。作られたきっかけ。特徴。 くらしの中でどんな役にたっているか。	「しんどいしんどいと言ってたら、仕事なんかできへん」と言うおばさんの苦労がわかった。後継者になるかならないかで、私は寒いからいやという理由にしたけど、本当にいいのかと思う。
35	原料。作り方。歴史。	自分で実際にすいてみて、たくさんの工夫・苦労が見えてきた。疑問が出てもみんなで調べ話し合ってまとめたのが楽しかった。
36	歴史。原料。作り方。	紙すきの工程をノートにまとめたら、先生にそれでは調べたことにはならないと言われ、一つ一つの苦労・工夫を予想し、それを確かめながら紙すきをしたり、研究所に見学に行った。

表２　子どもの関心の内容とその変化

月日／児童	１／９※	１／１０	１／１１	１／１６	１／１７	１／１９	１／２４	１／２５	１／２６	１／２９	１／３０	２／１
K・M	加美町のこと	杉原紙の歴史	杉原紙の歴史 杉原紙の用途	紙のすき方	紙を干すこと	ビデオの内容・紙を作る人の工夫・苦労	杉原紙歴史の整理	杉原紙歴史の整理	名称の変遷	杉原紙の歴史（他班との比較）	杉原紙の強度（洋紙との比較）	杉原紙の強度を生かす用途
Y・F	杉原紙の歴史	杉原紙の歴史	杉原紙の作り方	紙のすき方	紙すきのこつ	ビデオの内容・ビデオを見せる対象	杉原紙の歴史	まとめるときの書き表し方	杉原紙の歴史	紙を作る工程（他班との比較）	井上さんに尋ねること	杉原紙の強度を生かす用途
Y・H	杉原紙の歴史	杉原紙の歴史	杉原紙の作り方	黒皮とりのしんどさ	紙すきのこつ	ビデオ作成の目的						杉原紙の強度を生かす用途
A・S	ビデオを作ること	杉原紙の歴史	杉原紙の作り方（洋紙との比較）	紙のもとの混ぜ方 紙のすき方	紙を干すこと	ビデオ作成の目的	紙を作る工程	紙を作る工程	杉原紙の多くの用途	製品・工程・歴史	井上さんに尋ねること 洋紙との違い	手作りにこめられた人の心
Y・K	ビデオを作ること	杉原紙の歴史	杉原紙の起こり 杉原紙の復元	紙のすき方 圧搾	紙を干すこと	復元してよかったか	杉原紙の起こり 杉原紙の復元	赤字になっても紙を作る訳	杉原紙の起こり・杉原紙の復元・工程と工夫や苦労	杉原紙の良さは何か	自然条件を生かした手作りの良さ	自然条件を生かした手作りの良さ
M・M	杉原紙の実物	年表にまとめること 桶の大きさ・原料・作り方	自分で紙を作ること	紙がすけなかったこと	紙がすけなかったこと	取材の仕方	紙を作る工程をまとめること	紙の「耳」		他班の進行状況		杉原紙の強度を生かす用途
A・Y	杉原紙の存在と歴史	杉原紙の歴史	原木・黒皮	紙のすき方とこつ	紙たたき・紙干し	黒皮むき・紙すき・紙干し	杉原紙歴史の整理	紙を作る工程				自然条件を生かした手作りの良さ
N・F	杉原紙の歴史の古さ ビデオを作ること	１３００年のすごさ 後継者	紙のすき方とこつ		赤字覚悟でなぜ復元したか	よいビデオを作る条件 ＝話し方		復元された訳		名称の変遷と人気	厳しい寒さ・杉原川・職人の工夫	職人の工夫・苦労

※１／９は、96年１月９日を表している。

グループ毎に課題を持って調べ活動をしているが，その課題は毎時変化し，息の長い追究の様相は見られない。

1次なら，こういうこともあろうが，学習内容の本質に迫ろうとする2次としては，おぼつかない。教師の出番があった筈である。

次に，課題の形成・解決情報の提示の仕方である。

特に2次の1を挙げて説明する。

ここでの，課題形成情報は紙すき体験である。

2次のはじめに設定されたこの体験的活動は，子どもに強いインパクトをもたらし，関心を集約させている。

なぜ，製作過程の一部である紙すきを体験することが2次の課題形成情報になるのか。

むしろ，様々な製作過程について，各々の関心の向く工程について調べ，そのまとめとして紙すき体験がある方が自然だったのではないか。そうすれば，机上で学習した内容を共感的理解にまで高めることも期待できる。

2次の1の課題解決情報は，研究所見学である。

なぜ，製作過程に絞った学習の解決情報として見学がいるのか。それなら，自分で調べて，実際にその一部を体験することで十分カバーできる。

それより，2次の2の杉原紙ならではの良さに関わる解決情報として設定すべきである。

2次の2は，先述の通り，子どもの学習ぶりが拡散的傾向を示している。研究所見学という明確な解決情報があれば，もっと集約されていった筈である。

以上，子どもの関心の内容や変化に関わって考察をしてきた。

どちらかと言えば，総じて，子どものしたいことより，教師のさせたいことが優先する学習の流れであり，子どもの関心の持ち方が自然な形で表れにくかったと言えよう。

しかし，よいヒントも得られた。

子どもの関心が集約されている1／16，1／17に見られるように，紙をすくという体験は子どもに強い納得や満足をもたらせていることがうかがわれる。

また，研究所に行き，強い願いを持ってそこで働く井上さんの話を聞いたことも，長いスパンの学習に粘り強く取り組む要因になっているものと推察される。

これら二つの体験的活動は，学習対象から目を離すことなく，粘り強く関心を持ち続ける効果をもたらせたものと考えられる。

体験的活動は，関心の内容やその変化の仕方に大きな関わりがあることが考えられる。

（大橋尚人）

4．意欲の評価

意欲の評価研究は，これまでほとんど行われてこなかった分野であるので，本研究も，その定義，評価方法において試行錯誤を繰り返している。これまでの研究過程を整理すると次のようになっている。

＜研究Ⅰ＞

「もっと自分で調べたいことがありますか。」この問いの解答を「関心・意欲」で評価した。関心と意欲を分離する段階まで到達できていない。

＜研究Ⅱ＞

「どのように調べるか。」といった調査活動の方法に関する問いを配置しなかったので，関心・意欲を分離することが出来なかった。

＜研究Ⅲ＞

「子どもが問題の解決のために，積極的に調べ考えている状態」を意欲と定義した。そして，社会科固有の意欲を探究した。その結果，「何をどのレベルで調べたか。」を中心においたので，内容中心の意欲の把握に止まった。関心の評価との区別が依然として，不明確なままである。

＜研究Ⅳ＞

「子どもが社会事象についての研究活動を積極的・継続的に行っている状態」を意欲と定義した。このように意欲の定義を変えたのは，従来の定義では，たとえば「問題を発見する。」といった研究活動が，評価対象にならない恐れがあるからである。評価の実際においては，研究活動の質的側面を「思考・判断」，「技能・表現」とし，量的側面を「意欲」とした。

これらの研究過程を踏まえて，今回の研究（V）では，次のように定義して，研究を進めた。

＜研究Ⅴ＞

「子どもが社会事象についての研究活動を積極的・継続的に行っている状態および行おうとしている状態」を意欲と定義した。このように意欲の定義を変えたのは，子どもの自ら学ぼうとしている状態をも評価の中に組み込むためである。

そのために，子どもが学ぼうとしている事象の量と質を分析する。幅広い事象を深いレベルまで探究している子どもを，意欲の高い子どもと評価する。

4.1　意欲とそれに関わる学習成果

プリテストと単元終了後の感想文の分析から，子どもが，学習過程において，どのように意欲を育ててきたのかについて，検討した。

その結果，次の4点の指摘ができた。

① 分かることが意欲を喚起する。

② 知的探究が意欲を喚起する。

③ 体験が意欲を喚起する。

④ 調べ活動が意欲を喚起する。

それぞれについて，子どもの感想文の表現を具体的に

示そう。

4.1.1 分かることが意欲を喚起する

分かることは学習の基本である。その基本を踏まえていくことが，意欲を喚起する基本原理の一つである。児童Y・Kは，分かることによって，社会科の勉強が面白くなっていったことについて，次のように記述している。

「杉原紙をふり返ると，最初は，杉原紙のことはぜんぜん知らなかったけど，だんだんやっていくうちに杉原紙のよさは，丈夫で，なぜ丈夫かと言うと，トロロアオイというノリとセンイがひっついてそれがかたくなり，身がつまっているので丈夫！と分かってきて，分かっていくうちに，社会がおもしろくなってきました。」

Y・Kは，プリテストでは，和紙の作り方を調べたいと述べるに止まっていた。しかし，学習の結果は，杉原紙の特徴，和紙の製作過程における工夫と努力，後継者問題へと関心を広げ，意欲的に追求している。

児童A・Kは，学習の結果，色々なことが分かったことを，次のように記述している。

「私は杉原紙のことは，ぜんぜん知りませんでした。でも，杉原紙のことを勉強したので，いろんなことが分かりました。じょうぶ，なめらか，とっても白いとか，製品のこと，歴史のこと，工程のこと，条件のこと，といろんなことが分かり，いろんなことを学びました。」

その中で，杉原紙が1300年も続いたすごさと，後継者問題に強い関心を示している。そして，最後に，「本当に，杉原紙の勉強をしてきてよかったです。」と記述している。この児童も，分かることが学習の意欲を強く喚起していることを示している。

4.1.2 知的探究が意欲を喚起する

分かると次に新しい問いが生まれる。その問いの探究は，新しい問いを生み出してくる。問いの探究過程，すなわち，知的探究過程は，意欲を喚起する重要な条件である。疑問の連続が楽しく，学習意欲が喚起されている事例として，児童H・Oの次のような記述が上げられる。

「まず，楽しかったこと。楽しかったことは，やっているうちにいろいろなことがわかりぎもんもでてきた。ぎもんのれんぞくでした。その中でも最後までやりとおしたことが楽しかった。具体的にいうと，『武士，ばくふ，くげ，いっぱんしょみん，みんながつかいはじめたのはいつか』というぎもんがでた。ぼくたちは，『室町時代』だと思った。理由は鎌倉時代には，まだいきわたっていず，江戸時代には，いきわたっていたから室町時代だと思った。でも，江戸時代から使われていたかもしれないとぎもんがでた。そんな連続で話し合っていたのが楽しかった。」

子どもの感想文の分析をしていくと，問いが拡散的に出てくる場合も，絞りこんだ問いの追求をしている場合も，学習意欲を同じように喚起している状況がわかった。例えば，1300年続いた理由，工程，工夫や苦労，製品の特徴と幅広い問いを追求した子どもと，1300年続いた理由を追求し続けた子どもにも，同じような学習意欲がみられた。

4.1.3 体験が意欲を喚起する

体験が意欲を喚起するということが，この実践では顕著に現れた。この実践では，楮の水さらし，紙すき体験，紹介ビデオづくりといった体験が豊富に組み込まれた。このような体験が学習意欲を喚起した事例が多くあった。例えば，児童K・Nは体験が学習意欲を喚起した様子を，次のように記述している。

「ぼくは勉強していくうちにどんどんわかりとても楽しかったです。

本当に杉原紙をすいている所，杉原谷に行くことになりました。ぼくは当日の前の日に休んでいたので，くわしく話は知らなかったけど，杉原紙をすいている人たちの気持ちがよくわかりました。

杉原紙はとてもじょうぶでやぶれにくく，手ざわりのよい，いい紙です。それは自然があり，楮とトロロアオイがあるからこのような紙ができるのです。それに杉原紙でできる製品の数々は，ひとつひとつがとっても心がこもっているのです。

ぼくはこの学習をして，つらかったけど，とってもうれしかったです。それは，いろいろな体験ができたし，杉原紙のぼくたちが作ったビデオもできたからです。

これからも，またこのようなすごい新たな伝統工芸品があったら，一人でもがんばってくわしく考えていきたいです。」

4.1.4 調べ学習が意欲を喚起する

調べ学習が子どもの学習意欲を喚起する働きを持っている。これは，分かる，知的探究と重なってくる側面もある。しかし，調べ学習そのものが持つ，学習意欲喚起の働きも存在する。

児童の感想文の中に，「調べていくうちに楽しくなってきました。」という表現はよくみられる。

ここで示してきた4点の学習意欲喚起の方法は，どれかが主になり他の3点が絡まってくるという構造になっている。意欲を育てる授業設計においては，どれかを主において進めていくことが必要であろう。

（岩田一彦）

4．2 子どもの意欲とその成長過程

4.2.1 意欲の定義とその評価法

本研究では，「意欲」を「子どもが社会事象についての研究活動を積極的・継続的に行っている状態および行

おうとしている状態」と定義した。こうした意欲を評価するにあたっては，子どもが何（どんな内容）をどこまで（質），どれだけ（量）研究したのかを分析する必要がある。すなわち，子どもが学ぼうとしている事象に対する内容の量と質を分析することが不可欠である。 このような意欲を分析するために，子どもの事実に即して客観的に捉えられる振り返りカードや学習ノートを使うことにした。

4.2.2 評価の結果と考察

36名中９名の児童を無作為に抽出し，１月９日から２月１日までの振り返りカードの中に記述された「わかったこと」の内容を分析した。

その結果，杉原紙がこれまでに歩んできた歴史，和紙作りの工程，紙すきの工夫や苦労，杉原紙の良さ（特徴）に触れた記述が抽出児全員に認められた。これは，単元の計画にある主な学習活動の中で行われている杉原紙に関する情報収集，紙すき体験，杉原紙研究所見学といった一連の研究活動が，十分抽出児全員に保証されていた結果であると推察される。

次に，内容の質であるが，杉原紙がこれまでにたどった歴史に関しては，杉原紙が全国一になった理由や多くの地方で使われるようになったわけ（「日本一になったのは，大量生産で品質もよかった」「美濃杉原と競合して美濃杉原が衰えた」など）に言及している児童（６名）が見られ，因果関係的に事象を把握しており，杉原紙への意欲の育ちとして捉えることができる。

また紙すきの工程や工夫・苦労では，すきげたの角度（「90度の角度で水に入れる」），すく際の重さ（「すきげたは重たくて疲れる」），水の動き（「波のように揺れる」），空気を含まないようにすること（「水をきらないと紙に空気が入る」）や均一な和紙にすることの困難さ（「厚い所や薄いところができる」）まで，ミクロな事実に着目している児童（7名）が見られる。これは，単に工程の流れを知ることや客観的な紙すきの工夫・苦労にとどまらず，紙すき体験を通して実感的に紙すきの工夫や苦労をとらえているといえよう。これらのことから伝統的な紙すきの技に対する工程や工夫・苦労の内容に質的な深まりを見ることができ，子どもの杉原紙の工程に関する意欲の育ちとして評価をすることができる。

次に，杉原紙の良さに関しては，全員が何らかの回答を出している。それらは，主に和紙の丈夫さ，美しさ，手すきのよさに関わるものである。いわば単に和紙そのものの良さとしてであったり，手作りであることに関わっての内容といえる。しかし，ここでは，杉原紙ならではの条件に着目した内容（杉原の自然条件，杉原紙職人の伝統的技術，楮やトロロアオイといった原料など）が要求されるのではないだろうか。そうであるならば，それらに着目させる学習課題を設定し，子どもの杉原紙への意欲を育てることが望ましかったといえる。

次に，各次毎・各時間毎のノートの記述を分析して，単元を通して意欲が育っていった例を抽出児をとって検討していく。

Ａさん

（第１次での意欲）

第１次の第１時では，杉原紙の紹介とビデオ作りが示され，杉原紙の存在・歴史を知り，調べてビデオを作ろうと意欲を持った。

第２時になると，まず杉原紙の歴史に関しての事実を求める所に意欲が向いている。

第３時では，原料に関する事実的知識を調べることに意欲がでてきており，原木から黒皮むきへと意欲の量的側面が広がってきている。

さらに第４時では，紙のすき方に意欲の幅が広がり，すき下駄や竹など道具の使い方やすくこつに関して，記述が変化してきている。意欲の幅が歴史から工程へと変わってきていることで記述内容の変容が見られた。

以上第１次では，杉原紙の歴史，原料，工程の３つの観点へと意欲の幅が広がってきたが，質的にはまだ深まりを持ってない段階であった。

これは，「杉原紙の情報を集めよう」という学習課題のもとでの多面的な情報収集作業が行われたためだと考えられる。

（第２次の意欲）

第５時以降も，工程に関しての記述が続き，紙たたき・紙干し(第５時)，黒皮むき・紙すき・紙干し(第６時)と体験をふまえての工程での関心に集中している。記述は，紙干しに関して３項目，黒皮むきに関して４項目，楮さらしに関して２項目，ごみ取りに関して２項目，紙すきに関して２項目ある。それぞれの工程から杉原紙の良さに関係している項目をあげて説明している。

第７時は，杉原紙歴史の整理・第８時は紙を作る工程のまとめをしている。歴史に関して６項目と８項目，工程に関しては12項目をそれぞれあげている。第６時までのまとめとして，より多くの項目が上がっていることから，意欲の量的側面は高まってきていることがいえる。

ここまでの学習は，「杉原紙ができるまでを探ろう」の学習課題のもとで，まず，工程に関して探ろうと意欲を持ち，合計13項目の事実の記述が見られ，量的には増加した。内容面では，実際に紙すき体験を行っていることから体験に裏付けされた意欲へと変化してきた。

第１３時からは，学習課題が「杉原紙の良さを探ろう」となり，杉原紙の良さの記述がでてきている。

前時までの学習から杉原紙の良さを追求しており，Ａさんは，「ごみが入ってない」「真っ白」「なめらか」「いろんな厚さがある」と４つの観点について判断している。また，理由を11項目あげ，その理由には，他の観点に関

連して述べているものもある。

第14時では，杉原紙の良さを「自然条件を生かした手作りの良さ」と自分の考えをまとめている。

第15時では，杉原紙の良さに関して意見の交流をし，自然と伝統のわざと工程と原料の各観点をふくめたものとして集約された。

第16時では，後継者になるかどうかについて，「ならない」との考えをもって，その理由として，3点あげて説明している。

第2次の意欲は，工程・歴史・自然をもとに杉原紙の良さに関して記述が増加し，それぞれの事実がかみ合わされた良さの記述へと変化し，単一事実認識から相互関係認識へと質的にも深まりを見せている。

このことは，実際に紙すき体験をしたり，見学を行ったりしたことが意欲の持続・深まりを助長したと考えられる。ゆえに，第1次から第2次へと意欲は量的にも質的にも向上してきたといえる。

（第3次の意欲）

第17時以降は，学習課題が「ビデオ杉原紙を完成させよう」となり，ビデオの絵コンテ作りに関してまとめている。

製品に関しては7項目，自然に関して5項目，のりに関してはトロロアオイの説明に7項目あげている。

工程の説明に関して，楮に15項目，ごみ取りに2項目，紙たたきに3項目，紙すきに12項目，紙干しに5項目，選別に2項目と合計39項目をあげている。

歴史に関しては，30項目をとりあげている。

最後のまとめで井上さんに関しては1項目，将来への予想展望について1項目，杉原紙への愛着に1項目とりあげている。

これらの絵コンテの記述項目の数が，第2次の第7時から第12時までの量より多くなっていることから，学習の終盤にあってビデオづくりへの意欲が項目数の量の増加へと結びついて，よりよいものを作り出そうという意欲の向上が見られたととらえていいのではないか。

また，原料と自然条件を結びつけてその因果関係をとらえ，さらに工程での工夫へとつなげて考えていること，すなわち事実を因果関係・相互関係へとより深くとらえてきていることから質的にも深まりを見せたことがいえる。

（大西誠一・進藤憲司）

5．結

本研究の成果を概括すると，次の点が明らかになった。

① 紙づくりに関するミクロなところまで眼のいき届いた事実認識と，井上さんの生き方への共感が，子どもの関心を育てていた。

ミクロなところまで事実をしっかり見た教材開発と人間の生き様まで迫る教材が組み合わされれば，子どもの関心の育成に有効であることが明らかになった。

② 紙すき体験，ビデオづくりという体験活動が，事象のミクロなところまでの関心を育て，かつ，強い学習意欲を喚起していたことが明らかになった。その結果，子どもの追求の持続性が保証され，因果関係，相互関係といった質の高い追求にまでなっていた。

体験活動の有効性が，具体的授業展開と関心・意欲の育ちとの関係で示された。

③ 杉原紙を守っていくために，自分ならどうするかという主体的意志決定を迫ったことが，具体的かつ切実な関心を育てていた。社会科授業における意志決定場面の位置づけの重要性が示されたものである。

④ 分かる，知的探究といった認識内容の保証が，学習意欲を喚起することが明らかにされた。また，体験，調べ活動といった行動を伴う学習が，学習意欲喚起に有効であることも明らかになった。

今回の研究で明らかになったことを，他の実践で検証していくことが今後の課題である。

（岩田一彦）

注

<1> 岩田一彦他，子どもの関心・意欲を育てる社会科授業構成と実践分析―3年「社町の桃づくり」を事例として―，学校教育学研究（兵庫教育大学学校教育研究センター編），No.5, 1993, pp.143～161.

<2> 岩田一彦他，子どもの関心・意欲を育てる社会科授業構成と実践分析（Ⅱ）―小学校4年「山地の人々のくらし―安曇野（穂高町，豊科町）に湧く良質で豊富な水を生かしたくらし―」を事例として―，学校教育学研究（兵庫教育大学学校教育研究センター編），No.6, 1994, pp.67～82.

<3> 岩田一彦他，子どもの関心・意欲を育てる社会科授業構成と実践分析（Ⅲ）―小学校3年「ひとびとのくらしと商店―買い物を10倍楽しむ方法―」を事例として―，学校教育学研究（兵庫教育大学学校教育研究センター編），No.7, 1995, pp.81～94.

<4> 原田智仁他，子どもの関心・意欲を育てる社会科授業構成と実践分析（Ⅳ）―小学校4年「菊づくりに生きる沖縄の人々」を事例として―，学校教育学研究（兵庫教育大学学校教育研究センター編），No.8, 1996, pp.63～74.

Development and Analysis of Social Studies Lesson for Promoting Children's Interest and Volition (V) : In the Case of " Let's Videotape SUGIHARAGAMI (Traditional Paper Manufacturing in Kami-cho, Hyogo)" in the 5th Grade

Tomohito Harada, Kazuhiko Iwata
(Department of Social Science, Hyogo University of Teacher Education,
Shimokume, Yashiro, Kato-gun, Hyogo 673-14, Japan)
Noriyuki Yoshida, Seiichi Onishi, Kenji Shindo
(Attached Elementary School, Hyogo University of Teacher Education,
Yamakuni, Yashiro, Kato-gun, Hyogo 673-14, Japan)
Daimei Doumoto
(Yashiro Elementary School, Yashiro, Kato-gun, Hyogo 673-14, Japan)
Naoto Ohashi
(Sanju Elementary School, Suehiro, Miki, Hyogo 673-14, Japan)

This study is a continuation of Development and Analysis of Social Studies Lesson for Promoting Children's Interest and Volition (I) (II) (III) (IV) , which have been made clear that children's interest and volition can promote through enriching children's social cognition, and promoted children's interest and volition can enrich children's social cognition. The purpose of this article are also to develop and analyze social studies lesson for promoting children's interest and volition, and to develop a method that analyze and evaluate social studies lesson from a point of promoting interest and volition.

The hypothesis in this study is children's interest and volition can promote through enriching children's social cognition, and promoted children's interest and volition can enrich children's social cognition. Based on this hypothesis, we developed a lesson of "Let's Videotape SUGIHARAGAMI (Traditional Paper Manufacturing in Kami-cho,Hyogo)" in the 5th grade, and then analyze this lesson and children's understandings, interests and volitions. As a result of this study, it has been made clear that our hypothesis is valid.

Key words : interest and volition, social cognition, social studies lesson, evaluation, the SHIDOUYOUROKU (the course of evaluation) in 1991